資料２

「道内の感染状況等について（道案）」に対する主な意見

１　有識者・専門家等の意見

１－①
　感染者数の減少で保健所機能も少し正常な状態に戻りつつある。この機会に、ワクチン接種のさらなる加速をお願いしたい。
　医療関係者のワクチン接種がほぼ完了したことで安心して治療行為に従事できる。次は、介護関係の従事者のワクチン接種の拡大をお願いしたい。施設のみならず、デイサービスやヘルパーステーション、包括支援センターなどの関連施設が取り残されている。各市町村に対する働きかけをお願いしたい。

１－②
　地方ではワクチン接種の人員が十分ではないとの報道がある。人員を派遣して、地方での接種を進めていただきたい。

１－③
　道内感染者数の２／３を占める札幌圏に道直営の集団接種会場を設置し、ワクチン接種の促進を図ることについては理解するところであり、同時に医療従事者等の確保が困難なため高齢者への接種に時間を要している地域における接種体制の充実に対する更なる支援も必要と考える。
　今後、高齢者への接種を終了した自治体において、速やかに若年者への接種が開始できるよう、遅滞なく、かつ計画的なワクチンの配布が必要と考える。
　また、変異ウイルスの拡大以降、若年者への感染が拡がり、学校でのクラスターが増加していることから、学校職員に対する職域接種についても検討すべきではないかと考える。

１－④
　全体として感染者は減少傾向だが、そこから遅れて重症化してくるので、継続してしっかり対策し、感染を減らすことが重要。
　クラスターは、飲食店では休業要請等により増加していないが、事業所や学校での増加が目立つ。変異株による感染の増加も関係していると思われるが、現状に即した呼びかけ、対策が求められる。
　デルタ株の検査については、特に人口が多く、感染が容易に伝播する札幌市等の保健所設置市での検査を強化するよう、道としても市と連携して取り組むことが必要。
　ワクチン接種が進むと、これで自分は感染しないと考える方が増え、人同士の接触が増えることが懸念される。ワクチンは万全ではないこと、デルタ株等感染力の強い変異株についての情報がまだ十分ではないことなどから、引き続きの基本的な感染予防対策が必要であることを道民に伝え続けることが重要と考える。

１－⑤
　札幌圏でのワクチン接種券の配布を速やかに行い、ワクチン接種のスピードを上げていただきたい。